

予算案記者発表 質疑要旨

日時	令和3年2月2日(水) 午後3時30分～4時30分
出席者	<p>区長、副区長(2名)、教育長</p> <p>政策経営部長、総務部長、区民部長、文化商工部長、環境清掃部長、保健福祉部長、健康担当部長、池袋保健所長、子ども家庭部長、都市整備部長、地域まちづくり担当部長、建築担当部長、土木担当部長、教育部長、企画課長、財政課長、総務課長、防災危機管理課長、情報管理課長、総合窓口課長、ごみ減量推進課長、生活産業課長、文化観光課長、学習・スポーツ課長、福祉総務課長、総合高齢社会対策推進室長、障害福祉課長、子ども若者課長、再開発担当課長、庶務課長</p> <p>朝日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、東京新聞社、都政新報社、新宿新聞社、豊島新聞社、建通新聞社、日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、日刊建設通信新聞社、日刊工業新聞社、としまテレビ、(株)創発としま、池袋サンシャイン広報担当(16社)</p>
司会	広報課長

区長ほか	予算案について説明
質疑応答	
記者	新型コロナウイルスのワクチン接種、特に区民ひろばで行う集団接種について、ねらいを教えてください。
齋藤副区長	<p>区民ひろばは地域密着型のコミュニティ施設であり、高齢者や子育て世帯など世代を超えた交流も図れる、区民に非常に親しまれている施設である。</p> <p>ワクチンの集団接種の際、区民の方々にとって心理的なプレッシャーがかかるものと想定される。今まで行ったことがない施設ではなく常日頃から慣れ親しんでいる施設で接種を受けることにより、心理的なハードル下げるという点で非常に効果があると考えている。</p> <p>また、4～5の接種チームが週に3～4日の頻度で各区民ひろばの巡回を実施する。全区民ひろばに一斉に接種会場を設置すると非常に多くの医療従事者が必要になるが、巡回することにより、医療従事者の負担や不足を軽減する。</p> <p>これらのことにより、効率的・効果的に、区民の皆様に接種機会を提供できる体制を整備していく。</p>
記者	ワクチン接種体制について、「週に3～4回区民ひろばを巡回する」と発言されたが、資料では「月に2回程度の巡回」と記載がある。その点についてより具体的にお聞きしたい。
齋藤副区長	「1か所の区民ひろばにつき、月に2回程度、週に3～4日ずつ巡回していく」という意味だ。例えば、ある区民ひろばで週3～4日接種

	を実施したら、再度間隔を空けて週 3～4 日実施するというイメージ。
池袋保健所長	接種の回数について補足する。ワクチンは 1 人 2 回接種する必要があるが、2 回目の接種は 1 回目から約 3 週間空ける。区民の方々には 1 回目から 3 週間空いた次回の巡回で 2 回目の接種を受けていただきたい。
記者	豊島区独自の体制とあるが、前提として指定クリニックなど基幹的会場がある上で、区民ひろばにおいて、1 か所につき月 2 回程度巡回がくるという理解でいいか。
齋藤副区長	その通りである。
記者	「区有地を活用した介護施設に対する臨時特例的財政支援」についてお聞きしたい。区有地を借りている事業者が対象だが、民間から土地を借りている介護事業者に対する支援措置は無いのか。他の自治体でも同様の取り組みはあるのか。
齋藤副区長	基本的には区が歳入している地代を免除するという内容であるため、区有地が対象である。しかし、おっしゃる通り民間の土地を借りて介護施設を運営している事業者もいる。 今回、区内に通所施設を持っている特別養護老人ホームの事業者の方々が区役所に来られて窮状を訴えた。まず実施可能であることとして区有地借用事業者を対象とするが、民間の法人についても賃料の補助という形で対象を広げていくことを検討していく。 他自治体の取り組みについては、区有地の地代をこの規模で免除するという例は無いと思われる。豊島区のオリジナルのアプローチの 1 つであると考えている。
区長	区の土地を利用している以外の方も陳情にいらっしゃった。「高齢者関連施設からクラスターを出さないよう日々努力をしている」と訴えられ、改めて皆様の努力に報いていかなければならないと強く感じた。1 年間は全額無料にしたい。また、民間の法人についても考えていかなければいけない。他自治体においても初めてのケースではないか。 今回陳情を受け、とても感動した。こんなにも努力をしてくださっている方々に報いていかなければならない。話を聞くだけでなく、外に出て現状をしっかりと見ていかなければいけないと反省した。
記者	『池袋の都市再生 「駅袋 (エキブクロ)」 を大改造』について、詳細をうかがいたい。来年度の予算における関係事業はどんなものか。
再開発担当課長	新規予算ではないが、従来から続けている事業で、池袋駅改造の部分と、駅周辺の改造の部分がある。具体的な来年度予算事業については、予算案重点事業資料の 22 ページを参考にさせていただきたい。すでに動いている市街地再開発事業があり進行段階は様々である。東池袋 4 丁目 2 番街区、南池袋 2 丁目 C 地区、そして昨年都市計画決定に

	<p>なった東池袋1丁目地区の市街地再開発事業が主要な来年度予算事業になっている。</p> <p>駅前広場については事業者や関係者と協議中であり、継続して実施しているものなので新規拡充事業の扱いではない。</p>
区長	<p>池袋駅からいかに人を出すか、回遊してもらうかという課題があり、池袋駅とその周辺を大改造していく必要がある。西口では事業者中心に地権者と協議中である。池袋全体を視野においた「池袋の街づくり」の基本として位置付けていきたい。池袋の街をどのように盛り上げ、価値をあげていくかという理念や構想を、あえて今年度の予算案重点事業資料に盛り込んだ次第だ。</p>
記者	<p>豊島区独自のワクチン接種について、厚労省が先行事例として示した練馬区モデルとの差異をうかがいたい。</p>
齋藤副区長	<p>練馬区モデルは個別接種を基本としており、いかに小分けにスピーディに行うかという課題に取り組むものだ。</p> <p>豊島区に限らず、どの自治体でも地域のクリニック等で行う個別・集団接種は基本となる。豊島区の場合は、それに加え区民ひろばという心理的ハードルが低い慣れ親しんだ施設で巡回接種を行う点が特徴といえる。</p>
記者	<p>接種におけるスピード感を前提とし、区民の心理的なハードルを下げ負担を減らすということが目的ということか。</p>
副区長	<p>その通りである。区民の方々に対し、多様な接種の機会を提供できるという点で効果的だと考えている。</p>
区長	<p>ワクチン接種は新型コロナ対策の要である。豊島区は、地域の拠点である区民ひろばに積極的に出向き、誰一人取り残さないようワクチン接種を実施していく。課題もあり、今後詳細については検討していくが、豊島区は最善の努力を尽くし強い信念を持って取り組んでいく。</p>
記者	<p>予算案重点事業資料の25ページ「東京オリンピック・パラリンピック」に関する記載について、「区と都が一体となった豊島区方式のライブサイト」「豊島区独自のライブサイトを展開」とあるが、具体的にどの点が豊島区独自なのか。また、区と都がどのように連携していくのか。</p>
高際副区長	<p>昨年までは、東京23区唯一のライブサイトとして池袋西口公園が挙げられていた。その後、都で新型コロナ対策としてライブサイトの計画そのものが見直された。いわゆる「ライブサイト」とは、大会期間中、競技が行われている時間は継続的に放映しているものである。今回の見直しにおいて、都と調整のうえ、一般的なライブサイトではなく豊島区独自のライブサイトと位置付けた。</p> <p>具体的には、池袋西口公園「GLOBAL RING THEATRE」の良さ活かし、音楽の演奏やイベント等とオリ・パラ観戦を織り交ぜていく。文化とスポーツを組み合わせ、独自の楽しみ方ができる場を展開する。</p>

	<p>併せて、夏場の酷暑対策として区民センターの大型ビジョンも活用し、屋内での観戦も可能にする。また、観戦に訪れた子ども向けの体験コーナー等の開設も検討している。</p> <p>区民の方々にとって、東京オリ・パラ大会が生涯に一度の思い出となるよう取り組んでいく。</p>
記者	<p>おくやみコーナーについて。身内が亡くなった際の手続きがワンストップで行えるという認識でいいか。また、他区に同様の取り組みがあるか。</p>
総合窓口課長	<p>亡くなった方のご遺族等がどこの窓口でどのような手続きを行えばいいかを案内するコーナーであり、ワンストップで手続きが行えるものではない。当コーナーで必要な手続きの一覧を出力し、ご遺族に案内をするものだ。本区と方式は異なるが、大田区が今年度に導入をしたと聞いている。</p>
記者	<p>おくやみコーナーでのワンストップ手続きが実現しなかった理由はなにか。</p>
総合窓口課長	<p>各手続きは所管課で丁寧に行うという考え方であるが、仮にワンストップ手続きを実現するには、関連すべてのシステムが閲覧できる環境と全手続きに精通した職員が必要になる。今後検討のうえ、ワンストップ手続きを目指す選択肢もあると考えている。</p>
記者	<p>池袋駅東口の駅前開発について、延期された環状五号線の一（環五の一）の開通時期に左右されると思われる。その開通を見据えつつ、協議会等との調整も踏まえた構想ということか。環五の一の開通延期をどのように捉えているか。</p>
区長	<p>環五の一の開通により東口駅前の交通量が減少しないことには、東口駅前広場の整備が難しい側面もある。しかし、環五の一の開通が延期されていても、構想を進めていく必要があるし、地元の協議会等でもそのような機運がある。西口同様、事業者の声も聴き、最終的には、東西の地下空間と地上空間が連結したまちづくりを目指す。基本構想として今回発表した。</p>
記者	<p>環五の一の開通後に向けて準備していくといった認識でいいか。</p>
区長	<p>その通りである。</p>